

－ 目 次 －

(1) はじめに.....	3
(2) 肝炎の病態および肝炎感染リスクに関する知見の進展.....	5
1) 血清肝炎、非A非B型肝炎、C型肝炎の予後に関する知見.....	5
i) 昭和39年以前（～1964）の知見.....	5
ii) 昭和40年代（1965～1974）の知見.....	9
iii) 昭和50年代（1975～1984）の知見.....	12
iv) 昭和60年以降（1985～）の知見.....	17
v) 内科学の教科書における記載.....	21
2) 血液製剤による肝炎等の感染リスクに関する知見.....	23
i) 血液製剤の原料のおよび製造法の危険性について.....	23
ii) 当該血液製剤の不活化処理の違いによる肝炎感染の危険性について.....	29
iii) 当該血液製剤投与による肝炎感染についての文献報告.....	36
(3) 行政、企業、医療関係者などの対応整理.....	43
1) 行政の認識および対応について.....	43
i) 厚生労働科学研究費による研究について.....	43
ii) 当該血液製剤による肝炎感染情報の把握と対応.....	46
2) 企業の認識および対応について.....	51
i) ウイルス不活化処理に関するミドリ十字社の認識および対応.....	51
ii) 1985（S60）年までの市販後の副作用情報の収集と対応.....	58
iii) 1986（S61）年以降の市販後の副作用情報の収集と対応.....	60
3) 医療現場・学会の認識および対応について.....	68
i) 『今日の治療指針』および産科学系教科書の記載.....	68
ii) 医療現場の認識および対応.....	88
iii) 学会の認識および対応.....	89
iv) 医療現場の責任.....	93
(4) 各主体の対応の問題点の整理.....	94
1) 行政の対応の問題点.....	94
2) 企業の対応の問題点.....	94
3) 医療現場の対応の問題点.....	94
(5) まとめ.....	96
(6) 提言.....	98